

丹波市立看護専門学校関係者評価委員会

開催日時 令和6年5月10日（金） 9時25分～10時20分

場 所 丹波市立看護専門学校

出席者 （委員長）実習施設職員、（副委員長）本校の卒業生、本校在学生の保護者、地域住民、校長

事務局 健康福祉部長、副校長、事務長、教務主任

主な意見等

【令和5年度自己点検・自己評価総評について】

- ・入学者数が定員数を割っているため、定員数を充足できるように。
- ・本年度の入学者の男子学生数が例年よりも少ない。
- ・夏休み期間に実施されたナイトオープンキャンパスは一定の効果があったと思う。

※以下に、自己点検・自己評価の総評を掲載

自己点検・自己評価 総評

【 I 教育理念・教育目的 】【 II 教育目標 】

現代社会は、価値観の多様化、高学歴化、情報社会となっていることから、高度な医療技術や安全・安心な質の高い医療サービスの提供が求められている。また、当校は市を設置主体として、「市内の医療機関や介護施設等への看護師確保対策」を目的に学校が設置されていることから、丹波市内や近隣の市町へ就職し、地域に貢献できる看護師の育成が求められている。

これらを踏まえ、教育理念では、丹波市の理念である『丹(まごころ)の里』を基盤として、①丹波市への愛着と誇りをもち、人としての思いやりのある看護師を育成していくこと ②丹波市内の病院を始めとして近隣の施設や地域で活躍できる看護師を育成すること ③的確な状況判断のもとエビデンスに基づいたアセスメントをし、対象に応じた看護が実践できる看護師を育成していくこと を掲げている。学校のポリシーは、①求める入学生像 ②カリキュラム編成の方針 ③卒業時の姿 ④教育の検証・評価の指針 として示し、到達すべき方向が理解できるようにしている。

教育理念、教育目的、教育目標は、教員・学生への指針となっており、令和 5 年度の卒業生の 91%が兵庫県内に就職し、そのうち 32%が丹波市内に就職している。丹波医療センターや香良病院、大山記念病院等の実習病院への就職は 41%であった。今年度は臨地での実習時間がほぼコロナ前に戻ったことが丹波市内への就職率維持に繋がっている。

また、地域の特徴を知る授業として『企業見学』『地域魅力発見』あらたに『暮らしを支える看護Ⅱ』を実施し、フィールドワークを通して学生が主体的に丹波市の魅力や市民のニーズを調査した。学生へのアンケート実施後の結果から、「学校のある丹波市を知らないことが多く、丹波市の魅力をもっと知りたい」「丹波市の方の温かさを感じた」「生活のしやすさは市内でも地域により異なることがわかった」などの意見があった。今後も、授業以外にもボランティアに参加するなど丹波市の魅力や特徴を実感し、市内に就職してくれる卒業生を増やしていくことが必要である。

【 III 教育課程経営 】

教育課程は、基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野の 4 つから編成し、国家試験の受験条件である『97 単位・3000 時間以上』の学習時間を確保し、『105 単位・3030 時間』で構成している。

カリキュラムデザインは、学生が学習内容を理解しやすいように、漸進的カリキュラムデザインを選択し、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなど、基礎分野、専門基礎分野で学習したことを基盤として専門分野に繋がられるように考慮した配列としている。

はじめて医療に関する学習を進める上で、学習内容が理解しやすいように配置できている、学生にはカリキュラムツリーを提示し科目間の関連性が理解できるよう支援している。

講師の都合で科目の順序立てが思うように進まない場合もあり、専門分野の内容が先行するなど、逆思考での学習となることもあるが、これは看護師のように考える思考が求められている現状から必要な思考であり、柔軟に対応できる学生を育てることに繋がっている。

【 IV 教授・学習・評価過程 】

授業科目に関しては、科目ごとにシラバスを作成し、科目目標、学習内容、学習方法、使用するテキスト、成績評価の方法を記載し、学生に提示している。学習が効果的に進むように、関連のある内容をまとまりとして配置しているが、講師の都合、科目の進度によって開講時期が離れてしまうことがある。できる範囲で科目のくくりを近い時期に開講できるように科目配置をする必要がある。

専門分野の授業科目は、7 領域別看護学の担当者が中心的に担い、年度末に担当する看護学の内容を評価することで、看護学の領域や関連科目の領域での科目の重複や不足を確認できている。また、各自が責任をもって 1 つの領域看護学を担当するため、タイムリーな変更ができています。

【 V 経営・管理過程 】

設置主体が丹波市であることから、市の税金・地方交付税、県からの補助金、学生の入学金・授業料などを財源として運営している。

2019 年9月に校舎を新築移転したことで、学生がリラックスできるスペースや自己学習ができる場所が確保でき、教室、実習室のスペースも広くとることができ、学習環境は整っている。また、遠方から入学している学生に対しては、ワンルームマンション形式の学生寮を整備し、遠方からの学生を支援している。

実習施設は、同敷地内にある県立病院を中心に、公共交通機関で通学できる場所、通学時間が1時間以内の場所に確保し、学生の金銭的負担、時間的負担に配慮している。今後でもできる範囲で近隣での実習施設の確保をすすめていきたい。

【 VI 入学 】

学校が求める学生像のアドミッションポリシーを作成し、それに基づき、10月に地域枠入学試験、12月に一般入学試験を実施している。入学定員40名に対して、地域枠入試は15名程度、一般入試は25名の入学を許可している。試験実施までに入学試験委員会を開催し、前年度の評価を行い問題点や改善点を明らかにして、試験実施に関する内容を検討、決定している。

数年受験者数の減少が顕著であったが、一昨年度は例年の25%増、昨年度は受験者数が前年比6%増と一定の成果が認められた。少子化による18歳人口の減少に加え、大学進学希望者が増加していることは継続した課題であり、受験日程も早期化の傾向にある。当校も引き続き受験者の確保対策を工夫(進学説明のエリアを拡大、社会人の取り込み、市内の学校への進学者を確保するためにオープンキャンパスの対象者の拡大やトライやるウィークの受け入れ継続など)を行い、受験者数・入学者数ともに増えるよう更に対策・企画していく。

【 VII 卒業・就職・進学 】

教育理念・教育目的・教育目標に従ってカリキュラムを運営し、学則に基づいて単位が取得できた学生に対して卒業を許可し、専門士の称号を授与している。昨年度は退学者・休学者・留年者ともに0であった。入学した学生の3年間で目標に向かったものであるよう支援していくことが使命であり、支援者である教員の質の確保についても引き続き取り組んでいく。

学生が能動的に主体的に行動できるように、グループディスカッションができる演習室・研究

室を複数設置し、アクティブラーニングができる環境を整えている。又、他者との意見交換をすることで、自ら考え、判断し、行動できるように、アクティブシンキングの思考の育成に力を入れ、現代の若者の弱みを強みに変換できるようする必要がある。

令和5年度の国家試験の結果は、全国の合格率が全体で 87.8%、新卒者の合格率が 93.2%であった中、当校は 100%の合格率を得られた。また、昨年度不合格であった卒業生 1名も合格した。この結果から現在の国家試験対策は基礎的な知識の定着に有効であると判断できるため、継続して実施する必要がある。

今年度の実習は、4年ぶりにカリキュラム通りの臨地での実習が実施でき実習施設のご協力の賜物と感謝する。受け持ち患者を通して机上学習と現場での体験を結びつける機会が戻った。しかし、入院日数の短縮化や複雑な疾患を抱えて入院される患者が多く、学生が実際に手が出せる援助には限りがあり、援助する機会の減少から状況を判断する能力が弱い傾向にある。学内実習では、シミュレーション機器を用いて状況判断や観察をする学習を行い、リアリティを出す工夫をして補っている。また、異世代の方とコミュニケーションをとる機会が少なく、コミュニケーション能力が弱いことも考えられる。今年度は、コミュニケーション力強化のため、合同学習や他校との協働学習、異学年交流の継続、フィールドワークの機会を増やし、今後の学生の成長に期待したい。